



満天の星と映画を楽しむ

星空映画館



▲芝生に大型スクリーン

が開催されました。

この催しは、地域の豊かな自然を感じながら夢のある映画を見ることで、おおらかな気持ちを育み、夏休みの

西城町三坂の道後山高原クロカンパークで8月25日、道後山高原星空映画館2012(野外映画会)

思い出をつかってほしいという思いから、八鎚自治振興区が開催したものです。

会場となった芝生広場には、地域内外から200人が来場し、満点の星空のもと、縦4m×横6mの大スクリーンで、アニメ映画「宇宙ショーへようこそ」を楽しみました。

三坂、高尾、油木、八鎚落合の4自治会の青年部による地元の食のバザー出店、地元産の木材を加工した木ろうそくなど、手づくりの演出も好評でした。

来場者からは「映画だけでなく星空も見られてよかった」「空気が最高」「楽しい行事なのでまた参加したい」などの感想が寄せられました。

山ヨガで心身リフレッシュ

標高1000mでヨガ体験



今回で2回目となる女性限定のイベント「山ヨガ体験 in 吾妻山」が9月2日に行われ、県内外から20代~70代と幅広い世代28人が参加しました。

参加者は、東城町の土橋益寿子さんの指導のもと、吾妻山ロッジ前の草原で約30分間ヨガを体験。その後、約1時間かけて吾妻山の頂上へ登りました。

昼食は大膳原でとり、ブナとミズナラの森を抜けて、再びヨガを行いました。

参加者は、秋の草花が見ごろを迎えた吾妻山を体全体で感じながら、思い思いにスマートフォンやカメラに収めていました。

参加者は「ヨガをすることで足の疲労感がとれてよ

かった」と話していました。

主催した庄原市観光協会の吉川理恵さんは「若年層に山での新しい楽しみ方が提案できた。来年は吾妻山以外の山での開催も計画したい」と話していました。



花見でにぎわう上野総合公園に

庄原LCが創立50周年記念事業で桜を植樹



庄原ライオンズクラブは9月12日、創立50周年の記念事業の一環として上野総合公園に桜の苗木を植樹しました。

当日参加した約30人の会員は、汗ばむ天候の下、上野総合公園内にある弁天島区域の古桜が枯れている範囲に、高さ約1.5mの桜の苗木30本を約1時間かけて植樹していききました。

上野総合公園のサクラは、(財)日本さくら会による「さくら百選」にも選ばれ、花見のシーズンには市内外から多くの観光客でにぎわいます。

同クラブの滝口泰治会長は「植樹した桜の苗木が順

調に大きく育ち、市民の皆さんに花見を楽しんでいただき、かわいがっていただきたい」と話していました。

植樹された桜は、早ければ3年程度で花を見ることができそうです。



▲植樹する庄原ライオンズクラブの皆さん

園児と過ごす楽しいひと時 みどり園保育所&ハートウイング交流会

REPORT 7

みどり園保育所の年長児11人が8月29日、口和町にある特別養護老人ホーム ハートウイングで入居者と交流しました。

1日施設長を任命された園児たちは、早速ケアハウスに入居している29人の部屋を「みどり園保育所から来ました！遊んでください！」と元気良く訪問しました。

その後ホールで、「シャボン玉」などの歌をみんなで合唱。園児は「肩たたき」の歌に合わせて入居者一人一人の肩をたたきながら歌い、楽しいひと時を過ごしました。

ハートウイング職員の田端隆士さんは「これからも、園児とのふれあいを中心とした交流を続けていきたい」と話していました。



▲園児との交流を楽しむ入居者の皆さん

比和をまるごと堪能 比和まちなみ散策

REPORT 8



にぎわいのあるまちづくりを目指す「比和まちなみ散策ツアー」が8月29日、比和町で開催され、広島市などから36人の観光客が訪れました。

到着したツアー一行は、十割そば、山菜、漬物など比和の恵みを堪能し、昔ながらの雰囲気でお腹をいっぱいにした後、自然科学博物館、比和のまちなか、見ごろを迎



▲にぎわうまちなか

えた三河内のヒゴタイなど、比和地域の見所をゆっくりと満喫しました。

このツアーには初めて比和を訪れた人も多く、比和の景観に「こんなきれいなところがあったなんて知らなかった」と驚く姿も見られました。

古代人の生活・文化を知る 勾玉づくり・火おこし体験

REPORT 9



▲勾玉づくり

古代の人々の生活や文化を体験する「勾玉(まがたま)づくりと火おこし体験」が8月21日、比和自治振興センターで開催され、町内から23人が参加しました。

この催しは、古代の人々の生活を体験し、古代文化に理解を深めてもらおうと企画されたもので、比和小学校の児童15人も参加しました。

当日は、勾玉の原石となるロウ石をアスファルトでおおまかに削って形を整えた後、サンドペーパーを使って表面

を磨き上げ、世界に一つだけの自分の勾玉を作成。参加者は、磨けば磨くほどきれいになっていく勾玉作りに夢中になっていました。

また、火おこしでは、木の棒と板をこすり合わせた際に発生する摩擦熱を利用して火をおこす先人の技法を体験。

児童たちは「腕が疲れた」「昔の人って大変だったんじゃない」と言いながらも、教科書では学べない経験を積むことができました。



▲火おこし

過去の歴史を学び、平和の尊さを考える 高暮ダムで平和の集い

REPORT 4

今年で第13回目となる「高暮平和の集い並びに追悼碑前祭」が9月9日、高野町の高暮ダム朝鮮人追悼碑前で行了なされました。

日中戦争時の昭和14年に緊急発電用ダムとして着工された高暮ダムでは、国内の労働力不足を補うために朝鮮半島から多くの朝鮮人労働者が連行され、危険が伴う現場で過酷な作業に従事させられました。

この式典は、作業中に犠牲となった朝鮮人労働者と戦没者の方々、またダム建設で故郷を追われた方の冥福を祈り、平和の尊さについて考えるため毎年開催されているものです。

式典には、在日朝鮮人の方をはじめ市内外から約60

人が参加し、広島県高等学校平和ゼミナールや広島朝鮮初中高級学校の学生による平和の誓い、参加者全員による献花が行われました。また、ダムに向かって「アリラン」や「ふるさと」を合唱し、犠牲者に祈りを捧げました。式典後は、宿泊研修施設ふるさと村高暮で、地元高暮の野菜や朝鮮料理を囲んでの交流会が開催され、友好を深めました。



キャンプ体験から学ぶ2日間 帝釈峡まほろばの里で口北小学校が林間学校

REPORT 5



▲班旗を掲げて楽しい夕食

野外生活と集団活動を学ぶ口北小学校の林間学校が8月2日、3日の2日間、帝釈峡まほろばの里オートキャンプ場で開催され、5・6年生10人と教諭7人が参加しました。

初日は「キャンプを通じて、一人ではできないことも皆で協力すればできるんだという実感をつかんでください」という山田千恵

校長の訓示でスタートしました。児童たちは2班に分かれて自力でテントをたてた後、夕飯作りに挑戦。かまどに火をたき、鍋とはんごうで、そうめんと夏野菜カレーを作りました。日没後は、休校になっている帝釈小学校のグラウンドでキャンプファイヤーを楽しみました。

2日目は、ホットケーキを焼いて朝食を済ませた後、時悠館の映像展示室で帝釈峡の見所を予習し、史跡「帝釈寄倉岩陰遺跡」や鍾乳洞の「白雲洞」、天然記念物の「雄橋」を巡りました。

閉校式の感想発表で児童たちは「テントをたてるのもかまどでご飯を炊くのも初めてだったけど、皆で力を合わせてやりとげた」と胸を張っていました。

汗だく真夏の雪合戦！ 総領でスポーツ雪合戦講習会

REPORT 6



▲講師から戦術を学ぶ参加者

庄原市スポーツ推進委員協議会総領支部が主催するスポーツ雪合戦の講習会が8月18日、総領町の里山総領体育館で開催され、町内の小学生など約30人が参加しました。

参加者はまず、広島県雪合戦連盟から派遣された4人の講師からルールや注意点などの説明を受け、その後4チームに分かれて、投げ方のコツや戦術などを学びながら模擬戦を行いました。

模擬戦は1セット3分間、3セットマッチで行われ、選手たちはシェルターと呼ばれる壁に身を隠しながら、1チーム45個の室内用の雪球を相手の選手めがけて投げ合いました。

参加者は「講師の先生に練習方法や戦術を教えてもらったので、これから練習して大会で優勝したい」と意気込んでいました。